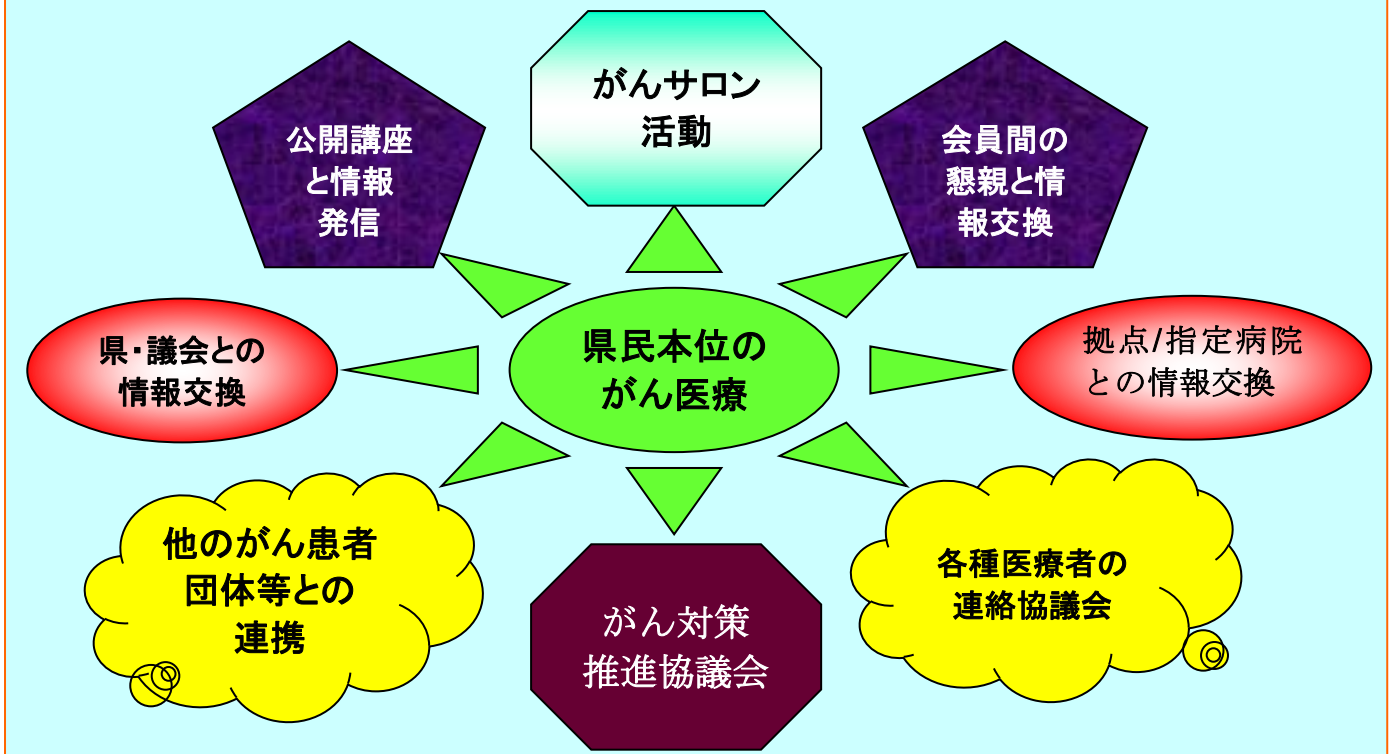


第5回

特定非営利活動法人

「茨城県がん地域医療を考える会」定期総会

NPO 法人 茨城県がん地域医療を考える会の目的と主たる活動



日時：平成30年4月28日(日) 10:00 (受付開始) ～

場所：大橋公民館 (笠間市指定文化財 岡の宿館跡)

〒309-1601 友部宅住所 笠間市大橋 2252 TEL : 090-3816-9715

総会議事次第

10:00 開会 理事長 挨拶

10:15 議長選出、議事録署名人選出

議題 第1号議案 第四期事業活動報告

第2号議案 第四期事業決算報告と監査報告

第3号議案 第V期事業計画と予算提案

第4号議案 役員改選期

12:00 閉会

12:30 「茨城県がん地域医療を考える会」わらび取りと茶話会

進行係 友部 登

第5回 NPO 法人茨城県がん地域医療を考える会総会に当たって

第二期 理事長 佐藤好威

H28年度国は、がん対策基本法の改訂版に、平成27年のがん対策協議会で議論された、「これまで、がん対策推進基本計画に明確な記載がなく、今後、推進が必要な事項」として、提案された下記項目：1. 将来にわたって持続可能ながん対策の実現、2. 全てのがん患者が尊厳をもった生き方を選択できる社会の構築、3. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じたがん対策を明記した。当会は、昨年公開講座報告集に記載したように、新がん対策基本法は、「病巣からヒトへ」軸足を移動したと解釈し、29年度を、当会の目的に準拠し、「サロン活動の質的レベルアップとがん教育」に注力してきました。一方、会としては、期せずして会員入れ替わりの年度になり、戦力が数的には減りましたが、県がん対策関連会議の傍聴、医療施設との交渉、学校当局との打ち合わせ、ホームページ（HP）更新の日常化、会計担当者の自立等、質的には高まった年となりました。以下に、この1年の特徴を振り返ってみます。

今年の活動の**特徴の一つ**は、新規加入者K夫妻の活躍と、当会開設当初から在籍したGさん並びにしろやまざくらに古くから参加していたKさんらのがん授業での初口演など、新しい力が生まれ力を発揮したことです。まずは、HPが機能し、会の活動日誌がWeb上で記され公開できるようになりました。当会の、**活動公開性**が定着したと思っています。次いで、がん授業で、当会員演者が、生徒の顔をみながら、ゆっくりと説得力ある体験話をしてくれました。「経験は個別のであり、そこに一人の人間の真実がある」という概念が広まる今日、がん教育はまさにその先駆けになってきたと思います。

二つ目の特徴は、医療者・教育者・行政がより患者家族の立場によりそい、協働してくれました。今年度の交流会・公開講座での植木先生の教育講演、サロンサルビアの赤荻先生の活動報告、勝俣先生の「がん情報に関する見極め方」の講演など、医師のあるべき姿や患者家族との「納得」関係樹立の大事さ、そして、現役教師ががん教育の有意性を語り、各病院のサロン窓口担当者が積極的に現状を報告し、がん行政担当者や就労担当者が公開の場で、がん対策・就労対策について口演・発言をしてくれました。まさに、当会定款の目的に順ずる活動が出来ました。加えて、県総合がん対策推進計画検討委員会や県総合がん対策推進会議の会場・開催時間が県庁周辺と15:00からに変更され、より傍聴しやすくなりました。

第三の特徴は、改正がん対策基本法の基本理念第2条の第4項「がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築」を目指すの文言が、より具体的積極的に県がん政策で語られるようになりました。特にがん患者の尊厳は、条文上や推進計画にも定義がなく、これを実現するには、何をなすべきか悩みましたが、がん患者の尊厳とは「患者個人個人の価値観、人生観、死生観の尊厳」であり、それらを個々人が持てるようになり、理解し合えるようになる社会の構築」と解釈できました。その観点から見ると、がん教育は「自分らしく生きる」ことの学びであり、医師不足は単なる数的解消ではなく、患者家族と十分なコミュニケーションのできる医師の育成であり、心身ともに自立するためのリハビリ関連対策・地域医療対策等の充実化と理解され、理念の活動目標化も見えてきました。

第四の特徴は、H30年3月16日開催の茨城県総合がん対策推進会で、第四次推進計画が最終討議にかけられました。一般から投稿されたパブリックコメント、24項目と委員からの提案6項目が検討され、計画に追記されました。当会からの提案が、4～5項目議題となり、音楽療法の件以外が採択されたように思います。特に、総論で改訂基本法の理念の項（尊厳）が追記、全体目標で、「患者本位の医療を行う医療者の育成」が付記されました。

がん対策基本法がより高度になり鮮明化してきている現在、患者会活動はより広く議論され、より活発に進められなければなりません。大事なことは、各自の価値観人生観です。改めて、自分の立脚点を見つけ、自分らしい生き方を築いていきましょう。